

お別れのこぼ

「鶯の 木伝ふ梅のうつろへば 桜の花の ときかたまけぬ」
鶯が木々を渡る梅が散ると桜の花が咲くころがやってくるように私達も幡羅中学校を旅立ち新たな道へと歩みだすときがきました。温かい陽の光が注ぎ、春の訪れを感じる今日佳き日に僕たちに卒業証書授与式を挙げていただき、ありがとうございます。今年度の卒業式は新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれましたが、こうして無事に迎えられることを誠にうれしく思います。

先程、校長先生から一人一人に手渡していただいた卒業証書。一人一人の人達は、たった一枚の卒業証書の重みを感じていると思います。もう一生来ることがない、仲間と共に過ごした愛しい日々がそうせるのかもしれません。

三年前、自分には大きすぎる新品の制服を着て、これからの三年間への希望を持つ自分がいる中、心の隅には友達ができるのか、勉強についていけるのかなど不安な感情を持ち、緊張しているもう一人の自分がいました。しかし、同じ時を過ごす仲間との距離はあっという間に縮まりました。仲間と共に練習に必死に食らいついていった部活動やクラブチームの活動。自分の力不足を実感した定期テスト。日常の一つ一つの出来事を通して「チーム幡羅中」の一員として責任を感じました。

純白の高原で行われた最初の宿泊行事であるスキー教室。たくさん転んで、たくさん失敗して、それでも隣には笑いながら手を伸ばしてくれた仲間がいました。仲間と握りしめた手の感触が今でも僕の心の中にあります。

「先輩」としての自覚が芽生え始めた二年生での林間学校。険しい山道を仲間と励まし合いながら登り切ったハイキング。苦しみながらも完成させたカレー。自然を肌で感じたキャンプファイヤー。雨が降っていることを忘れてしまうくらい仲間と歌い踊りました。

最上級生としての責任を感じすべての物事にも「最後」という言葉を意識し始めた三年生。自分達で計画を立て自分たちで行った修学旅行。京都、奈良の歴史を肌で感じている中、電車を間違えてしまったり、迷子になったりというハプニングもありました。でも、そんな失敗をしても助けてくれたのは班の仲間でした。クラスで、そして学年で助け合った修学旅行

は大成功だったと堂々言えます。

中学校生活で私たちに心と体を育ててくれたのは部活動です。部活動中止となってしまうくらいの暑い夏。手がかじかみ上手く力が入らないくらいさむい冬。そんな中でも一日一日を大切に真剣に向き合ってきました。三年間の中で満足のいく結果を残した人。あと少しというところで涙をのんだ人もいました。しかし、ぼくたちの三年間の努力は一生の宝物です。辛い時も苦しい時も仲間がいたから乗り越えることができました。仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。僕たちのことを第一に考えてくださった顧問の先生にも感謝しています。本当にありがとうございます。

幡中生としてプライドを持って挑んだ体育祭。競技種目はもちろん白熱しましたが、演技種目も素晴らしいものでした。演技が決まらず多くの不安を抱えながら迎えた本番でしたが一人一人が真剣に取り組み幡中生の底力を実感することができました。

木々の葉が色付き始めたころ、幡羅中に歌声が響くようになりなりました。意見が合わずに不穏な空気が漂った時も一人一人が全力で歌いました。学年合唱「あなたへ」会場にいたすべての人に僕たちの思いを届けるため心を込めて歌いました。我ながら、今までで一番の合唱だと思います。

そんな行事や部活動を終わると受験という乗り越えなければならぬ壁が現れました。不安を払拭するように黙々と竹枝に向かいました。辛くてやめたいときもありましたが、それでも努力し続けることができたのは先生方や家族共に歩んできた仲間の支えがあったからです。僕達はこの十五年間、たくさんの人に助けられてきました。

先生方、僕達がここまで大きく成長できたのは先生方が寄り添って下さったからです。間違ったことをしてしまったら心を鬼にして叱ってくれ、物事を成し遂げた時には自分のことのように喜んでくれました。先生方から教わったことをこれから先も僕たちの心に深く刻み込まれています。今まで本当にありがとうございます。

お父さん、お母さんいつもは照れくさくて言えないけど僕たちのことを十五年も見守り続けてくれてありがとうございます。意地張って強い口調で言ったり、八つ当たりしてしまったりと本当にたくさん迷惑をかけてしましました。それでも僕たちの一番の理解者でいてくれてありがとうございます。これから迷惑を

かけると思います。僕達にはお父さん、お母さんが必要です。いつか必ず恩返しができるように頑張ります。これからもよろしくお願いします。

最後に今まで共に歩んできた仲間へ。毎日、この校舎で顔をあわせて他愛のない話をしては泣き笑い、時には失敗をしてなぐさめ合い共に成長することが自分の日常であり当たり前でした。そんな当たり前の日常が、あの門を出たらなくなってしまう。でも、ここで終わりではありません。ここで過ごした日々を思い出して頑張っている仲間を思い浮かべて前に進んでいけばいい。僕たちは一人じゃない。これまでも、これからも三年間皆と過ごせてよかった。最高でした。僕たちはずっと「仲間」です。本当にありがとう。

先生方、お父さん、お母さん。そして仲間の皆に三年間の感謝を込めて歌います。聞いてください「あなたへ」

僕たちは今日、幡羅中学校を旅立ち、自分で選んだ新しい道を歩み始めます。勿論、不安な気持ちがないわけではありません。しかし、仲間、先生方と様々なことを乗り越える中で信じていることの喜びと強さを知った僕達は、ここで身に付けてきたことを糧にして頑張っていこうと思います。僕達は答えがある問ばかりを教わってきました。でも、明日からは僕たちの正解をいざ探しに行きます。卒業後も応援の程をよろしくお願いします。

最後になりますが、幡羅中学校のさらなるご発展を祈念し、お別れの言葉といたします。

令和2年3月14日

卒業生代表 村岡 幹太